

裾野市民文化センター 御中

開放型スプリンクラー放出事故に関する検証等

放出事故発生日時

令和4年9月24日(土) 午後1時前頃

放出箇所

舞台部北側から4系統に分かれている開放型スプリンクラー設備の1系統(最北)と、
3系統(北側から3番目)からの放出であった事が判明。

※これは、北側階段途上のスプリンクラー消火設備の制御弁室内に設置の1系統目の一斉開放弁と、
3系統目の一斉開放弁が、開放表示をしていた事から判明出来ました。

スプリンクラー設備とは

スプリンクラー設備には、大きく分けて下記の2つのシステムがあります。

① 閉鎖型スプリンクラー設備(ホテルや病院等に設置されている一般的な方式)

これは、一般的な施設に設置されているシステムあり、常時各所の閉鎖されたスプリンクラーヘッドまで、水圧が掛かって居り、火災生場所のスプリンクラーヘッドのヒューズブルリンクが火災の熱により溶ける事で、局所的に放水を開始し、その水の流れをポンプ室内の圧カंकが検知し、ポンプを自動起動させ、更なる加圧での水量で、消火をするシステムです。

② 開放型スプリンクラー設備 (裾野市民文化センター様に設置されている方式)

これは、劇場等の舞台や、化学倉庫等、急速に火災が拡大する場所に設置するシステムであり、常時に開放されたスプリンクラーヘッドを用い、感知器等との自動連動か、手動開放弁の系統選択による人為的な操作により、選択された系統のみの一斉開放弁を開放する事で、選択された系統毎のスプリンクラーヘッドから放水を行うシステムあり、消火ポンプから、一斉開放弁までは常時に加圧充水をされていますが、一斉開放弁から、スプリンクラーヘッドまでは、常時には、空配管となっています。

裾野市民文化センター様のシステムは、火災感知器等との電気的な連動方式は一切無く、
あくまでも人為的な手動開放弁の人為的な操作でしか放水に至らないこの方式を採用されて
います。

想定される原因と、当日の対処、対策について

今回の突然の放水の原因については、人為的な手動操作弁の操作による物としか想定が出来ませんが、念のため、法定点検時に立会いをさせている消火設備メーカーの担当者呼び、本設備に何らかの損傷や、異常な動きや形跡が無いかを確認する為、該当の2系統を含む、全系統の動きについて、ドレンコックを用いて実際に水を流しての作動確認を行いました。全系統共に、正常な動作を行って居る事の確認に至り、復元を致しました。

また、舞台南北2箇所にある、手動操作箱収容ボックスの扉には、扉を開けると切れるタイプの封印シールを貼付致しました。(今後の為の予備として、複数枚数を手配中です) 更には、扉を開けると、現地でベルを鳴動させたりの威嚇阻止措置や、遠隔監視等もご必要とあれば、お申し付け頂けましたら、検討をさせていただきます。

以上、報告を申し上げますので、ご査収を賜ります様、お願い申し上げます。

令和4年9月25日

ニッセー防災株式会社